

## 令和元年度屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会 における検討状況

### 1. 経緯

平成 28 年度、世界自然遺産地域・国立公園の山岳部の自然環境を保全するとともに、山岳部利用者に屋久島らしい質の高い利用体験を提供することを目指し、山岳部利用のビジョンを定め、施設の整備及び維持管理、利用者管理並びに情報提供等の適切な管理方策を検討するため、有識者等による「屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会」を設置。概ね「骨子イメージ」に沿って検討を進めている。

平成 29 年度は「屋久島世界自然遺産・国立公園の山岳部適正利用ビジョン」を取りまとめ、平成 30 年度は、登山道の現況や魅力を整理し、適正利用のため登山道のルートごとの「あるべき利用体験ランク」とランクごとの目標・方針を取りまとめている。

#### 屋久島山岳ビジョン 骨子イメージ

(屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部の適正利用ビジョン)

1. 作成目的
2. 背景
3. 対象区域
4. ビジョンと基本方針
5. 適正利用のためのあるべき利用体験ランク設定
6. あるべき利用体験ランクごとの（管理）目標・方針
7. 施設の整備と維持管理
8. 利用者誘導と情報の提供
9. モニタリング
10. その他（管理体制・担い手確保等）

#### <全体スケジュール実績と予定>

2016 年度	第 1 回検討会 (12/25)	基本理念 基本方針 (1~4)	ランク設定 (5~6)
H28 年度	第 2 回検討会 (2/4)		
2017 年度	第 1 回検討会 (7/17) 第 2 回検討会 (8/18-20)		
H29 年度	第 3 回検討会 (11/4-6) 第 4 回検討会 (1/29)		
2018 年度	第 1 回検討会 (7/31) 第 2 回検討会 (10/9)	施設整備 維持管理 (7)	利用者誘導 情報の提供 ほか (8~)
H30 年度	第 3 回検討会 (11/12) 第 4 回検討会 (1/14)		
2019 年度	第 1 回検討会 (6/14) 第 1 回作業部会 (9/8)		
H31・R1 年度	第 2 回検討会 (9/9) 第 2 回作業部会 (11/30) 第 3 回検討会・講演会 (12/1) 第 3 回作業部会 (1/12) 第 4 回検討会 (1/13)		
2020 年度	年度内 3 回程度の検討会		
R2 年度	年度内 1 回のシンポジウム開催 (予定)		

## 2. 令和元年度進捗状況概要

検討会を4回開催し、前年度以前より宿題となっていたビジョンの「一言フレーズ」を決定。また、主に施設の整備と維持管理関係について議論を重ね、登山道の区間ごとの施設整備・維持管理水準を設定。さらに、作業部会を3回開催し、情報の提供について取りまとめた。

(1) 検討会・作業部会開催日時：上表参照

(2) 参加者

### <検討会>

- 【検討委員】** 柴崎茂光（国立歴史民俗博物館准教授）  
（五十音順。敬称略） 土屋俊幸（東京農工大学大学院教授） ※座長  
 吉田正人（筑波大学大学院教授）
- 【関係機関】** 林野庁九州森林管理局、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、屋久島警察署  
 屋久島町、公益財団法人屋久島環境文化財団、屋久島町議会  
 屋久島町区長連絡協議会、公益社団法人屋久島観光協会  
 屋久島山岳ガイド連盟、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会  
 宮之浦岳岳参り伝承会、環境省九州地方環境事務所
- 【オブザーバー】** 屋久島世界遺産科学委員会委員

### <作業部会>

- 【参加者】** 屋久島観光協会ガイド部会、屋久島山岳ガイド連盟、屋久島公認ガイド、  
 屋久島森林生態系保全センター森林保護員、  
 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会、  
 屋久島自然保護官事務所自然保護官補佐 計10人程度
- 【オブザーバー】** 検討委員

## (3) 令和元年度検討の流れと成果

検討会 検討項目	ビジョン 【一言フレーズ】	施設の整備と維持管理 【適正利用のための区間ごとの施設整備・維持管理水準の設定】	作業部会 検討項目	情報の提供 【提供する情報の内容の整理】
第1回検討会 6/14		<p>「施設の整備と維持管理方針・方策」作成の考え方の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区間ごとに考える</li> <li>・各ルート「あるべき利用体験ランク」を踏まえる 等</li> </ul>		<p>「利用者誘導と情報の提供」作成の考え方の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートごとに考える</li> <li>・各ルート「あるべき利用体験ランク」を踏まえる 等</li> </ul>
第2回検討会 9/9	委員案の提示	<p>50年後のあるべき利用体験と施設整備・維持管理について（ワークショップ）</p> <p>主要な縄文杉ルート・宮之浦岳ルートについて認識を共有・整理</p>		<p>電子媒体で提供すべき情報について意見交換</p>
講演会 12/1		<p>山岳地のトイレについて情報共有</p>		
第3回検討会 12/1	→第3回で仮決定		<p>→第3回：縦走ルートの区間（縄文杉・宮之浦岳コース含）の水準合意</p>	<p>標識で提供すべき情報について意見交換</p>
第4回検討会 1/13	→第4回で決定		<p>→第4回：残りの区間の水準合意 【全区間決定】</p>	<p>これまでの検討結果確認と実現化に向けて意見交換</p>
検討会の成果	ビジョンの「一言フレーズ」を決定	<p>適正利用のための施設整備・維持管理水準を設定</p> <p>※5～10年後に目指すべき利用体験の質（あるべき利用体験ランク）を実現するための施設整備・維持管理水準</p> <p>※区間ごとに水準設定。</p>	作業部会の成果	提供する情報の内容の整理（電子媒体・標識）

#### (4) 令和元年度検討結果

##### ① ビジョンの「一言フレーズ」

屋久島の山岳部利用のあり方についてのビジョン（50年後の未来像・目標※）を端的にわかりやすく表現するものとして「一言フレーズ」の検討・設定を行った。

山を畏れ 山に学び 山を楽しむ （主題） ～山・里・海の魅力あふれる屋久島～ （副題）
--

※【参考】未来像・目標（50年後の目指す姿）

- (1) 原生性と神聖性、人の一生よりはるかに長い時の流れ、生物や物質のつながりと循環、自然の恵みと厳しさが残る山（島）
- (2) 登山の入門者から豊富な経験を持つ登山者まで自然を深く堪能できる山（島）
- (3) 人と自然の関わり方、新しい山の文化を模索し、発信する山（島）

##### ② 適正利用のための区間ごとの施設整備・維持管理水準の設定

前年度までに検討してきた50年後を見据えた屋久島山岳部全体のビジョン、5～10年後に目指すべき将来像として各登山ルート（登山口～経由地～下山口）におけるあるべき利用体験の質を5段階で表した「利用体験ランク」及びランクごとの整備・管理方針の設定を踏まえるとともに、今年度第2回検討会において、利用の多い縄文杉ルートと宮之浦岳ルートについては50年後の利用体験・施設整備についてのワークショップを行ったり、第3回検討会において山岳地トイレについての講演会を開催して認識を共有したりした上で、登山道の区間ごとの施設整備・維持管理水準を設定した（表1、図1）。なお、各箇所特有の事項等のうち、特に必要なものについては備考として付記することとした。

<参考>前年度検討より

###### 前提となる条件

- 利用体験ランクは、5年後から10年後に目指すべき将来像として、各登山ルートでのあるべき利用体験の質を5段階で表したものとなる。
- ランクの設定は、各登山ルートの魅力や得ることができる利用体験、必要な体力や想定されるリスク、整備状況等を踏まえた総合的な判断による。

###### 留意点

- 検討会での議論を踏まえ、実際の利用を想定した登山ルート（登山口～経由地～下山口）を対象としている。
- 利用体験ランクは、各登山ルートの現況を表すものではなく、また、各登山ルートの難易度の評価ではないことに留意する。
- 具体的な整備方針については、各登山ルートの利用体験ランクを踏まえ、区間ごとに検討する。

##### ③ 情報の提供についての整理

電子媒体（登山を計画しようとする人向け）及び標識（登山をしている又はまさにこれから足を踏み入れようとする人向け）に議論絞り、あるべき利用体験ランクとランクごと整備管理方針も踏まえつつ、提供すべき情報の内容について検討して整理した（表2、表3）。

### 3. 次年度予定

5年目の最終年度であり、検討会を3回程度開催し、施設整備と維持管理、利用者誘導と情報の提供について引き続き検討するとともに、モニタリング等についても検討し、ビジョンを取りまとめる。最終的にシンポジウム等により普及啓発を行うことも想定している。

表1 登山道区間ごとの施設整備・維持管理水準

区間番号	区間経路	施設整備・ 維持管理の水準 (区間ごと)	区間を通過するルートのあるべき利用体験ランク(ルートごと)					備考
			ランク 1	ランク 2	ランク 3	ランク 4	ランク 5	
1	登山口(龍神杉)～龍神杉	4				4		
2	登山口(愛子岳)～愛子岳山頂	4				4		
3-1①	弥生杉コース(白谷雲水峡入口～弥生杉～さつき吊り橋～白谷雲水峡入口)	1	1	2	3	4		
3-1②	奉行杉コース(さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くぐり杉付近の分岐)	2		2	3	4		
3-1③	太鼓岩往復コース(白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩)	2		2	3	4		
3-2	辻峠～楠川分れ	4				4		
3-3	白谷雲水峡入口～楠川歩道入口	4				4		
4-1	永田歩道入口～竹の辻	5					5	
4-2	竹の辻～鹿之沢小屋	5					5	
4-3	鹿之沢小屋～永田岳	5					5	
4-4	永田岳～焼野三叉路	5					5	
5	花山歩道入口～鹿之沢小屋	5					5	
6-1	登山道入口(ヤクスギランド)～大和杉	3			3		5	
6-2	大和杉～花之江河	5					5	
7-1①	30分・50分コース(ヤクスギランド入口～仏陀杉～ヤクスギランド入口)	1	1	2	3		5	
7-1②	80分コース(荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)	2		2	3		5	
7-1③	150分コース(荒川橋分岐～蛇紋杉～つつじ河原)	2		2	3			
7-2	蛇紋杉～太忠岳	3			3			
8-1	荒川登山口～大株歩道入口	2			3	4		※1
8-2	大株歩道入口～高塚小屋	3			3	4		
8-3	高塚小屋～焼野三叉路	4				4		※2
8-4①	黒味分れ～焼野三叉路	4				4	5	
8-4②	花之江河～黒味分れ	3			3	4	5	
8-5	淀川登山口～花之江河	3			3	4	5	
8-6	黒味分れ～黒味岳	3			3			
9	旧栗生歩道入口～花之江河	5					5	
10	登山口(湯泊)～花之江河	5					5	
11	登山口(モッコヨム)～モッコヨム岳山頂	3			3			
12-1	登山口(尾之間)～蛇之口滝	3			3	4		
12-2	蛇之口滝入口～淀川登山口	4				4		

## 【備考】

※1：通過するルートのあるべき利用体験ランクは「3以上」であるが、検討結果を踏まえ施設整備・維持管理水準は「2」とした。

※2：通過するルートのあるべき利用体験ランクは「4」であるが、検討結果を踏まえ新高塚小屋付帯の自己処理型トイレは必要に応じて改築及び補修しながら可能な限り継続使用する。

## 【セルの説明】

	：通過するルートのあるべき利用体験ランクが重複していない区間
	：縄文杉・宮之浦岳・縦走ルート関係区間
	：白谷雲水峡・ヤクスギランド・蛇之口滝・大和杉関係区間

区間ごとの施設整備・維持管理水準	区間No.	路線名	区間経路
1	3-1①	白谷雲水峡	弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)
	7-1①	ヤクスギランド	30分・50分コース (入口～仏陀杉～入口)
2	3-1②	白谷雲水峡	奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くり杉付近の分岐)
	3-1③	白谷雲水峡	太鼓岩往復コース (白谷雲水峡入口～辻峠～太鼓岩)
	7-1②	ヤクスギランド	80分コース (荒川橋～つつじ河原～仏陀杉)
3	7-1③	ヤクスギランド	150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～つつじ河原)
	8-1	縄文杉線	荒川登山口～大株歩道入口
	6-1	花之江河ヤクスギランド線	登山道入口(ヤクスギランド)～大和杉
	7-2	太忠岳線	蛇紋杉～太忠岳
	8-2	縄文杉線	大株歩道入口～高塚小屋
	8-4②	宮之浦線	花之江河～黒味分れ
	8-5	宮之浦線	淀川登山口～花之江河
	8-6	宮之浦線	黒味分れ～黒味岳
	11	モッコヨム岳線	登山口～モッコヨム岳山頂
	12-1	尾之間線	登山口～蛇之口滝
4	1	龍神杉線	登山口～龍神杉
	2	愛子岳線	登山口～愛子岳山頂
	3-2	楠川線	辻峠～楠川分れ
	3-3	白谷雲水峡	白谷雲水峡入口～楠川歩道入口
	8-3	宮之浦線	高塚小屋～焼野三叉路
	8-4①	宮之浦線	黒味分れ～焼野三叉路
5	12-2	尾之間線	蛇之口滝入口～淀川登山口
	4-1	永田線	永田歩道入口～竹の辻
	4-2	永田線	竹の辻～鹿之沢小屋
	4-3	永田線	鹿之沢小屋～永田岳
	4-4	永田線	永田岳～焼野三叉路
	5	花山線	花山歩道入口～鹿之沢小屋
	6-2	花之江河ヤクスギランド線	大和杉～花之江河
	9	栗生線	旧栗生歩道入口～花之江河
	10	湯泊線	登山口～花之江河

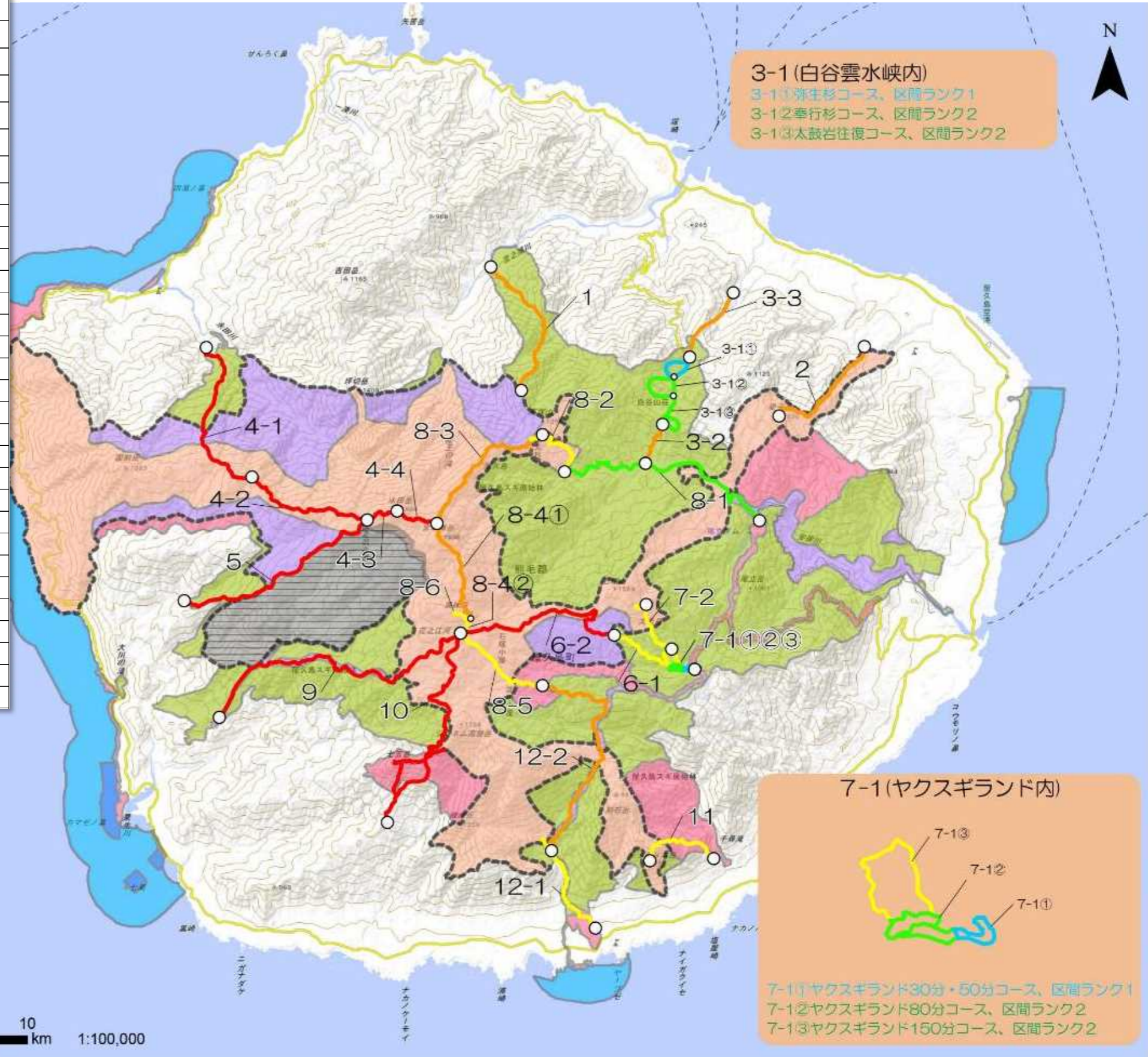


図1 登山道区間ごとの施設整備・維持管理水準

【参考表1】 屋久島のあるべき利用体験ランクと整備・管理方針 ※H30 検討会で合意

1		屋久島の山は、現代においても山岳信仰が受け継がれている「聖地」 屋久島の自然の厳しさを認識した上で、山への畏敬の念や感謝、遠慮の心を持っての利用が求められる					
2		1	2	3	4	5	備考・留意点
利用体験ランク		都市的 ←-----→ 原生的					
3	想定される利用体験の質	屋久島山岳部の自然にふれあう探勝ルート ・バスやレンタカー等で容易にアクセスでき、行程は半日未満の一般観光客向けルート。 ・木道や階段が整備され、川には橋があるなど、安全性・快適性が配慮された探勝ルートで、屋久島の自然とふれあえる。	屋久島山岳部の自然を楽しむトレッキングルート ・バスやレンタカー等で容易にアクセスでき、行程は日帰り(半日～一日)の登山入門者向けルート。 ・木道や階段が適所に設置され、川には橋があるなど、快適性が優先されたトレッキングルートで、屋久島の自然を楽しめる。	屋久島山岳部の自然を体感できる登山道 ・舗装路または未舗装路での車両を用いたアクセスが基本となり、行程は日帰り(一日)の登山経験者向けルート。 ・快適性よりも自然の雰囲気や景観が優先された登山道で、屋久島の自然を体感できる。 ・危険箇所は小規模の木道や階段が設置されるが、渡渉が必要な場合があり、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らの一定のリスク管理と行動判断が要求される。	屋久島山岳部の原生的な自然を体感できる登山道 ・未舗装路や悪路での車両を用いたアクセスが基本となり、行程は日帰り(一日)または一泊の登山経験者向けルート。 ・自然の雰囲気の保持が最優先された、人との出会いが稀な登山道で、屋久島の原生的な自然を体感できる。 ・木道や階段の整備を行わないことを基本とする。また、渡渉が必要な場合があり、ルートの誘導は必要最低限で、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らのリスク管理と高度な行動判断が要求される。	屋久島山岳部の原生的かつ荘厳な自然を深く体感できる登山道 ・徒歩でのアクセスが基本となり、行程は一泊以上の経験豊富な登山者向けルート。 ・自然の雰囲気の保持が最優先された、ほぼ人と出会わない登山道で、屋久島の原生的かつ荘厳な自然を深く体感できる。 ・木道や階段の整備を行わないことを基本とする。また、渡渉が必要な場合があり、ルートの誘導は必要最低限で、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らのリスク管理と極めて高度な行動判断が要求される。	
	4	利用者の	想定される利用者 一般観光客	ハイカー・登山入門者	登山者	登山者	豊富な経験を有する登山者
5	想定されるリスクと対策の方針	想定される行程 半日未満	日帰り(半日～一日)	日帰り(一日)	日帰り(一日)・行程によって一泊	一泊以上	
	装備(靴)	歩行に適した靴(サンダル・ハイヒール等不可)	トレッキングシューズ	トレッキングシューズ・登山靴(ある程度の防水性・足首のホールド性があるもの)	登山靴(防水性が高く、足首がホールドされるもの)	登山靴(防水性が高く、足首がホールドされるもの)	
	登山装備(悪天候時や道迷い等の際の備え)	雨除け対策(登山用レインウェア)	雨除け対策(登山用レインウェア) 非常食 道迷い対策(地図・コンパスなど) ヘッドライト	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	3～5は、増水で渡渉点が悪化した場合等の整備が必要。 4、5は、道迷ってしまった場合に自分の位置を確認し、ルートに復帰するための整備が必要。
	道迷い	道迷いの発生防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	道迷いの発生防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	道迷いの発生に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気の保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	
6	利用の頻度・利用の容易さ	路面状況による転倒などのケガのリスク 転倒の発生等の防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	自然の雰囲気の保持よりも、転倒の発生等の防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	転倒の発生に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気の保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、転倒の発生等を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	転倒の発生等の防止に関する整備を行わないことを基本とし、必要最低限の管理とする。	
	荒天時のリスク(渡渉点の増水・大雨や霧による視界不良などによる行程変更)	荒天時にも安全に避難・待機することが可能な整備・管理を行う。	必要に応じて、荒天時にも避難・待機することが可能な整備・管理を行う。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。	
	人との出会い(繁忙期を除く)	常に人に出会い、時に渋滞が起きる。数十名の団体利用も想定される。	しばしば人に出会う。	時々(1時間に数回程度)人に出会う。	稀に(1日に数回程度)人に出会う。	1日の行程で、ほとんど人と出会わない。	普通の平日を想定。
7	環境	アクセス バス・レンタカー等で容易に到着できる。	バス・レンタカー等で容易に到着できる。	舗装路を利用して、車両で到着できる。場所によっては、未舗装路利用の場合もある。	未舗装路・悪路を利用して車両で到達する。場所によっては徒歩でのみ到達可能な場合もある。	徒歩での到達を基本とする。場所によっては未舗装路・悪路を利用して車両で到達可能な場合もある。	
	自然らしさ(人工物の状況)	安全性・快適性のため、人工的な構造物が頻りに設置されている環境	安全性・快適性のため、人工的な構造物が適所に設置されている環境	安全性・快適性のため人工的な構造物が少なく、自然の雰囲気の保持が優先された環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境	
8	音	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	まれに人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	静か、ほぼ自然音のみが聞こえる。	静か、ほぼ自然音のみが聞こえる。	
	道の歩きやすさ(路面・木道の整備)	ぬかるんでいる場所、木の根や石で滑りやすい場所、傾斜がある場所等には、歩きやすいよう木道・階段等を設置する。	地面を歩くことを基本とするが、木の根・石・斜面などの滑りやすい場所には、必要に応じて木道・階段を設置する。	地面を歩くことを基本とし、特に滑りやすい部分や急傾斜等には必要に応じて小規模な木道を設置する。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	設置した木道等は適切に保全・補修等を行う。 ・登山道周辺対策や植生の保護を目的とした木道については、ランクによらず適切に設置する。 ・整備の程度はランク・状況により検討が必要となる。
	橋・渡渉点の対応	渡渉しなくてよいように、橋等を設置する。	渡渉しなくてよいように、必要に応じて簡易な橋を設置する。 ・橋を設置しない場合、渡渉点が増水した際は管理者の判断で利用を制限することがある。	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。必要に応じてロープやワイヤーを設置する。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	
	ロープが必要な登坂・岩登り箇所の対応	必要な箇所に階段等を設置する。	必要な箇所に階段やはしご等を設置する。	必要な箇所にロープや鎖を設置する。	必要な箇所に最低限のロープや鎖を設置する。	対策を行わないことを基本とするが、危険箇所には必要最低限の対策を行う。	
	トイレ・携帯トイレの設置	出入口に男女別のトイレを設置する。距離・入込数等の必要に応じて、区間内にも適宜トイレを設置する。(処理の方法は状況による)	出入口に男女別のトイレを設置する。距離・入込数等の必要に応じて、区間内にも適宜携帯トイレを設置する。	必要に応じて、区間内の要所に携帯トイレを設置する。設置の際は自然の雰囲気の保持に配慮する。	区間内に必要最低限の携帯トイレを設置する。設置の際は自然の雰囲気の保持に配慮する。	トイレ・携帯トイレを設置しない。屋外での携帯トイレ使用を基本とする。	
	休憩施設・ベンチ	雨除け可能な東屋を適所に設置する。ベンチを一定間隔で設置する。	ベンチ・休憩スペースを適所に設置する。必要に応じて雨除け可能な東屋の設置する。	必要に応じて最低限の休憩スペースを設置する。避難小屋やその周辺のスペースを利用する。	設置しない。	設置しない。	
宿泊施設	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	避難小屋 避難小屋周辺でのテント泊	宿泊施設、避難小屋及びテント場は設置しない。 (他ルートの避難小屋利用を想定)	緊急にピバークする場合を除く。	
9	管理	案内(道の案内・地図等)	入口及び分岐点・立ち寄り地点の要所に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	簡易なものを入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	
	道標	分岐点及び一定区間ごとに設置	分岐点及び一定区間ごと(頻度は中程度)に設置	分岐点及び必要に応じて区間内に最低限の設置	分岐点にのみ設置	分岐点にのみ設置	
	規制・注意	入口に注意点を明記。全ての規制・危険箇所を設置。	入口に注意点を明記。必要に応じて規制・危険箇所を設置。	必要に応じて規制・危険箇所を最低限の設置。	入口に特筆すべき注意点を明記。区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険な箇所については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	入口に特筆すべき注意点を明記。区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険な箇所については、必要に応じて目印(テープ等)による注意喚起を行う。	危険箇所明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと同調しないものを用いる。
	解説	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する主な箇所に必要最低限の解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。 ※各箇所には設置しない。	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。 ※各箇所には設置しない。	
	ルートの誘導・ルート外へ出ないようにするための規制	ルートが明確な状態とする。 ・不明瞭な箇所においては、橋・ロープ、木道等により歩行可能な場所が明確な状態とする。	ルートが明確な状態とする。 ・不明瞭でルート外に利用者が迷い出す可能性がある区間ではロープ等によりルートが判別できる状態とする。	ルートが明確な区間での誘導は行わない。 ・ルートが不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	誘導のための目印(テープ)は、他の目的のものと同調せず、視認性が高いものを用いる。
危険木(倒木や落枝の恐れのある木)の処理	定期的な伐採又は枝落とし等の処理を行い、当該処理ができない場合には簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて最低限の簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とするが、特に危険な木については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とし、ルートへの注意喚起など、必要最低限の対策に留めるものとするが、特に危険な木については、必要に応じて目印(テープ等)による注意喚起を行う。	危険木明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと同調しないものを用いる。	
倒木の処理	巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。状況に応じて倒木の処理を行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。通過できる程度の必要最低限の処理を行う。	巡視時に状況を確認する。倒木迂回による植生への影響、倒木乗り越え時の危険、倒木による道迷い、倒木が登山道保全に影響がある場合のみ、周辺環境への影響が出ない方法で処理を行う。	応急措置として、通行止めや迂回路とする場合もある。	
草木の刈り払い	必要に応じて定期的な刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならず、快適に歩行できる状態を保つ。	必要に応じて定期的な刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならない状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。自然の雰囲気の保持を優先しつつ、必要に応じて必要な箇所の刈り払いを行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。原生的な自然の雰囲気の保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の刈り払いとする。	巡視時に状況を確認する。原生的な自然の雰囲気の保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の管理とする。		
巡視の頻度	1日に1回程度実施	1週間に1回程度実施	1ヶ月に1回程度実施	年に1～2回程度実施	年に1回程度実施		

【ランクを問わず必要な留意点】

※1 利用体験ランクの設定は無雪期で荒天時を除いた天候での利用時を想定しており、降雪期・積雪期や荒天時には利用に伴うリスク(渡渉点の増水や視界不良、転倒のリスク等)が想定より高くなることに留意が必要である。

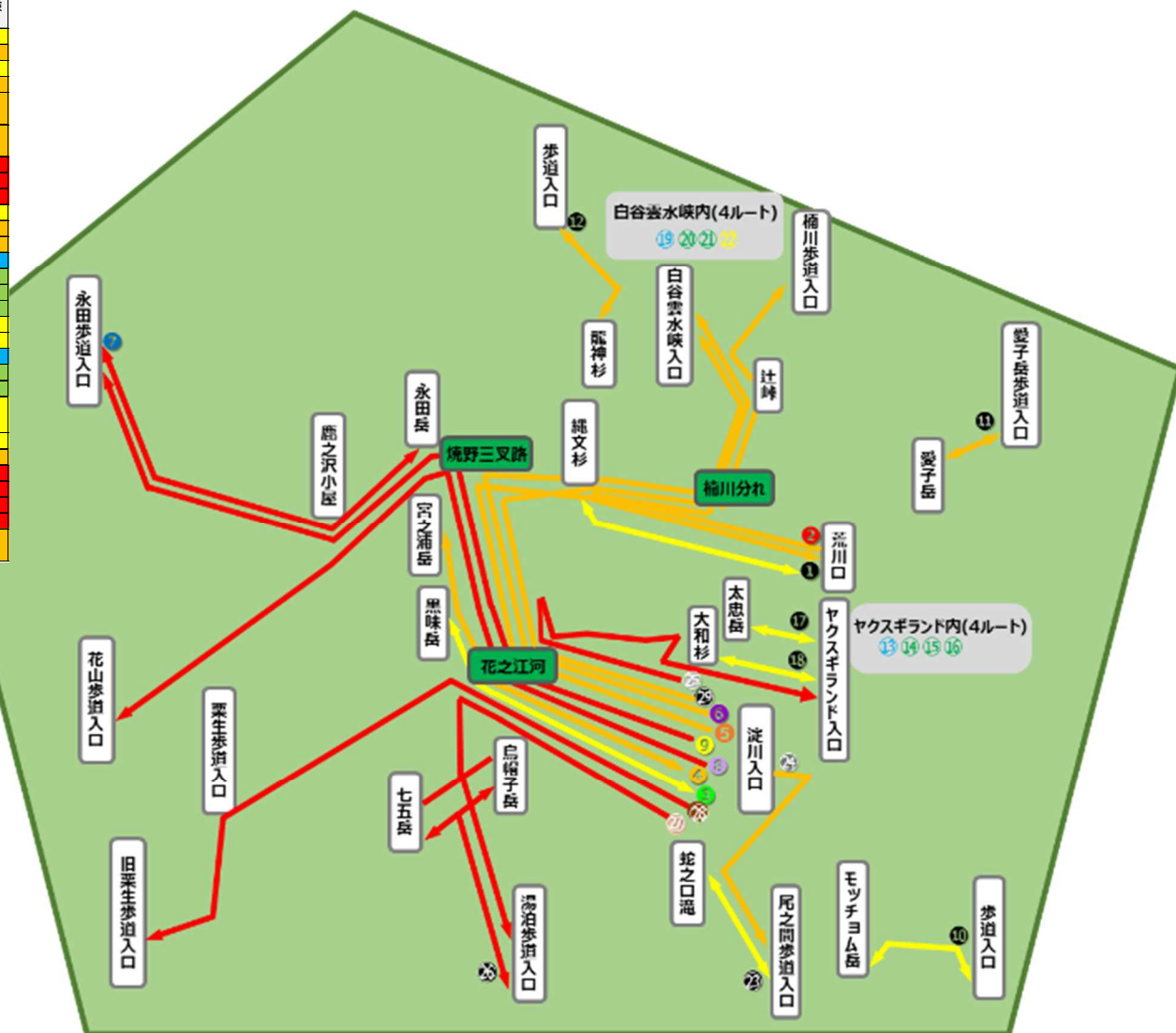
※2 ランクを問わずヒールによる故障の可能性があるため、利用者に適切な対応をするように推奨する。

【参考表2】 各登山ルートのあるべき利用体験ランク ※H30 検討会で合意

利用体験 ランク	No.	ルート	利用体験ランク選定理由	備考・留意点	
1	13	ヤクスギランド30分・50分コース	・第3回検討会時に決定。		
	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	・グループ討議での議論を踏まえ、一般観光客を含めた様々な利用者が屋久島の自然とふれあうことができるルートとして、ランク1を想定。	・グループ討議において、「ランク1を想定した場合、登り階段の厳しさ、入口付近の岩場等での転倒リスクがある」という意見が挙げられた。	
2	14	ヤクスギランド80分コース	・コースタイムや距離は比較的小さいが、整備状況等を踏まえランク2を想定。		
	15	ヤクスギランド150分コース	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。		
	16	ヤクスギランド210分コース	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。		
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	・グループ討議での議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。	
3	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	・グループ討議での議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。	
	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	・グループ討議での議論を踏まえ、コースタイムや距離、必要な体力やリスク面等を考慮し、ランク3を想定。	・グループ討議において、「想定される利用体験の質の面ではランク2が妥当であると思う。また、現状の利用状況を踏まえると、施設整備の水準としてはランク2が望ましい」との意見が挙げられた。 ・日帰りではなく高塚小屋等を利用しての宿泊想定の場合、より深い利用体験を得ることができる(人の少ない静かな状態で縄文杉を見ることができる、など)。	
	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	・魅力として奥岳の原生的な自然を体感できるルートであるが、コースタイムや距離、体力面やリスク面といった現況等を考慮し、ランク3を想定。		
	10	モッコム岳往復 日帰り	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、前岳エリアであることを考慮。 ・日帰り行程で、万代杉(巨木)やコケのきれいな沢、山頂からの眺望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。	
	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、植生の変化やスギの天然林、山頂付近からの展望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・山頂に祠がある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。	
	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、大和杉(巨木)や苔むした風景、原生林の雰囲気など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・聞き取りの際、留意点として「道迷いしやすい箇所がある」という意見が挙げられた。	
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	・グループ討議での議論を踏まえ、No.22やNo.23と比較してコースタイムや距離が長くなり、体力面が厳しくなることを考慮し、ランク3を想定。	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。	
	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、リスク面(現況評価で4)を考慮。 ・日帰り行程で、蛇之口滝の景観や、希少な植物が生育する照葉樹林など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・現状では利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。	
	4	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定であり、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	・宿泊は高塚小屋の利用を想定。 ・H30第4回検討会において、荒川登山口往復コースよりも、峠を1つ多く越えることから体力が必要との指摘があった。
		4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	・グループ討議での議論を踏まえ、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。 ・グループ討議において、「比較的人との出会いがあるルート」、「日帰り想定の場合、一日のコースタイムが非常に長くなるため、推奨できない」との意見が挙げられた。
5		淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	・グループ討議での議論を踏まえ、宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。	
6		淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	・宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。	
11		愛子岳往復 日帰り	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、登山口から世界遺産地域に含まれており、山頂からの眺望や照葉樹林から針広混交林までの植生の変化や苔むした風景を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。	
12		龍神杉往復 日帰り	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、龍神杉等の巨木や苔の生えた石畳などを楽しむことができるルート。また、トロコ道跡があり、林業の歴史を感じることができる。	・渡渉点があり、道迷いや転倒等のリスクが比較的高く、ヒルが多いことから、現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。	
24		淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用に伴うリスクは高い(現況評価で5)が、日帰り行程が可能であることを考慮。 ・日帰り行程で、スギ林から照葉樹林への植生の変化を体感でき、鯛之川や蛇之口滝の景観を楽しむことができるルート。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましい。	・現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。	
29		淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	・宿泊想定であること、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性、楠川歩道の歴史的な雰囲気(石積歩道、石標)といった魅力、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。	
5		7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
		8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・第3回検討会において、「湯治歩道や栗生歩道といった他の歩道の比較した場合、現在の花山歩道の状況はランク4が適当」という意見が挙げられた。 ・理想の状況として、ランク5の利用体験が可能ルートとすることを旨とし、適切な整備・管理水準とすることを想定。 ・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。	
	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。	
	26	湯治歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の整備水準や利用状況を維持することが望ましく、かつ山頂に祠がある岳参りの道としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。 ・コースタイムや距離から日帰り行程が可能ではあるが、アクセスルートが崩壊しており、登山口への到達が困難かつ時間がかかる状況であることから、例外としてランク5を想定。	・第4回検討会において、「登山口までの林道の崩壊によりアクセスが困難であるとともに、登山口が非常に分かりづらい。」との意見が挙げられた。 ・聞き取りでは「比較的登りやすいルート」との意見が挙げられた一方、「木道や標識は少ない。整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい」との意見が挙げられた。	
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯治歩道入口 1泊	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。	
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。	



区分	No.	対象ルート	利用体験 ランク
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4
淀川入口～荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4
淀川入口～白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4
永田歩道・花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5
	8	淀川入口～花山歩道入口 1泊	5
	9	淀川入口～永田歩道入口 1泊	5
モッチョム岳	10	モッチョム岳往復 日帰り	3
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り	4
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り	4
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース	1
	14	ヤクスギランド80分コース	2
	15	ヤクスギランド150分コース	2
	16	ヤクスギランド210分コース	2
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	1
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	2
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道 1泊	5
湯泊歩道・栗生歩道	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	5
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊	5
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5
楠川歩道	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4



【参考表2(付図)】対象登山ルートのルート図(あるべき利用体験ランクにより色分け) ※H30 検討会で合意

表2 電子媒体による情報提供

対象	これから登山を計画しようとする人
特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の事前入手が可能</li> <li>・利用体験レベルの合わせた、個別の登山計画が立てやすい</li> <li>・個別の要求の合わせた情報提供が可能</li> <li>・多様で詳しい情報提供が可能</li> <li>・更新が容易で、最新情報の提供が可能</li> </ul>
基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的としている場所の利用体験の質や難易度情報等を提供し、登山者が自身の体力や登山技術に見合う計画であるか確認が可能となり、想定される山岳事故を未然に防止する。</li> <li>・最新天気や危険箇所及びアクセス道の通行可否などの新着情報を提供し、外的要因による山岳事故を未然に防止する。</li> <li>・複数言語での情報発信により、外国人観光客及び登山者への様々な対応を図る。</li> <li>・各機関から発信される情報を当該ホームページで集約して発信し、登山者にとって分かりやすいものとする（各機関からの強みを活かした情報発信は継続し、リンクなどで連携する）。</li> <li>・ガイドなどからの情報提供（登山道、避難小屋、危険箇所等）により、最新情報をフィードバックする。</li> </ul>
情報提供の内容	<p>【登山に必要な情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新天気や危険箇所及びアクセス道の通行可否などの新着情報</li> <li>・登山道の難易度、装備、水場の位置などの登山道ごとの情報</li> <li>・登山道の見どころやコース概要などの山岳部を中心とした魅力</li> <li>・携帯トイレ購入可能場所、登山道を歩く上での注意などのマナー・ルール</li> <li>・屋久島山岳部保全対策協力金の目的や納入場所など</li> <li>・登山届に関する情報</li> </ul> <p>【その他の有用な情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス運行時刻表やバスチケット購入方法、アクセス道の位置など交通・アクセス</li> <li>・ガイドの検索や売店の場所、警察医療機関などの山岳部以外の屋久島のインフォメーション</li> </ul> <p>【ガイドなどからの情報受信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道の荒廃箇所</li> <li>・避難小屋・トイレの損傷</li> </ul>
考えられる発信ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード（スマートフォン、PC、タブレット）</li> <li>・ソフト（アプリ）</li> </ul>
デザイン・構成時の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的なサイトにする</li> <li>・他サイトとのリンク</li> <li>・多言語表示</li> </ul>

表 3 標識による情報提供

対象	これから登山をしようとする人／登山をしている人
特性	・ 現地での情報提供が可能
基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者が自らの判断でルート選択が出来るようにする。</li> <li>・ 世界自然遺産として屋久島にふさわしい、原生的なイメージを損なわないものとする。</li> <li>・ 道迷いや山岳遭難の回避、自然環境への負担軽減となるよう、あるべき利用体験ランクに応じた適切な表示をする。また、外国人利用者に対応した多言語（英語）、ピクトグラム表記としていく。</li> </ul> <p>【注】ピクトグラム (pictogram) とは、情報や注意を示すための、シンプルな図記号</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋久島の価値への理解を深め、適正利用の促進を図るものとする。</li> </ul>
情報提供の内容	別表 1、別表 2
デザイン・構成時の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園の歩道計画にない登山道を通過しないと辿り着けない山については、標識等で紹介しない。</li> <li>・ 盗掘や盗採の恐れのある植物の既設案内看板は、順次撤去する。</li> </ul>
設置方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋久島登山道の利用体験ランクと整備・管理方針に準じた標識の内容及び設置箇所、設置数とする。</li> <li>・ 主要登山道への入口、ルート、休憩地点、眺望又は観察地点はある程度限定されていることから、山岳部の全般的な情報、マナー・ルール等の利用者が自覚と責任を持つべき事項、立入りを規制する場所、保護すべき自然環境について、入山前（入山時点）に情報提供ができるようにする。</li> <li>・ 自然環境の保護が必要な場所、利用規制がされている場所については、それぞれの地点においても周知を図るようにする。</li> <li>・ 外国人利用者への案内に対応するため、周知が必要と判断される場合は、英語を併記するとともに、必要に応じてピクトグラムを活用する。</li> <li>・ 標識は、厳しい気象条件の影響を十分に考慮した構造とし、設置箇所周辺への自然環境に影響を与えないよう考慮する。</li> <li>・ 破損、老朽化したものは撤去、修復等を行い、重複した内容の標識については統廃合を行い必要最小限とする。</li> </ul>

別表 1 標識の種類ごとの機能・設置場所の整理

種類	主な機能	主な設置場所
案内標識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登山道の利用体験ランク</li> <li>・ 登山道入口で周知すべきマナー</li> <li>・ 注意喚起等の告知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要な登山道入口</li> <li>・ その他の登山道入口</li> </ul>
誘導標識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登山道内での目的地への誘導</li> <li>・ 位置情報を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登山道の分岐点</li> <li>・ 道迷いの多い場所</li> <li>・ 位置確認ができるよう一定間隔に設置</li> </ul>
注意標識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登山道内で周知すべき規制や注意が必要な箇所の情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立入りを規制する自然環境や自然現象がある地点</li> <li>・ 利用上危険となる可能性がある地点</li> <li>・ 利用規制されている地点</li> </ul>
資源名又は解説標識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資源名情報を提供</li> <li>・ 優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等の解説提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優れた景観等を眺望又は観察、記念撮影となりうる地点</li> </ul>

別表2 屋久島山岳部標識 (R1 作業部会整理)

標識の種類	内容		備考	設置場所
案内標識 (主要登山道)	・ルート名 ・登山道の利用体験ランク	・往復時間、距離、難易度 ・携帯電話有感の場所	・利用者層の幅が広く、登山経験の浅い利用者が多く利用するため、他の登山道よりは手厚く案内することになる。	・荒川登山口 ・淀川登山口 ・白谷雲水峡入口 ・ヤクスギランド入口
案内標識 (その他登山道)	・登山道入口で周知すべきマナー ・注意喚起等の告知 ・必要な装備	・難易度、道迷いの程度 ・ロープ場、危険箇所 ・渡渉点 ・必要な飲料の量	・利用体験ランクに応じ、内容は選定して入れる。 ・原生的な場所を通過するルートは、標識を設置しすぎず、原生性を保つようにする。	・太忠岳入口 ・龍神杉入口 ・楠川入口(県道側) ・旧栗生歩道入口 ・湯泊歩道入口 ・愛子岳入口 ・永田歩道入口 ・花山歩道入口
誘導標識	・次のポイント(場所)までの案内		・英語標記併用	・永田岳山頂 ・永田岳山頂前分岐 ・鹿之沢小屋 ・楠川分れ ・宮之浦岳山頂 ・投石岩屋 ・辻峠
	・水場の案内		・英語標記併用	
	・県道の方向を示す矢印標識		・登山口から県道(バス停)まで徒歩移動する人が迷う場合もあるため。	・登山口
	・入り口からの「位置」がわかるよう、番号(緯度経度表示案もあり)が入った道標にする		・救助要請等の情報伝達のため ・コンパス、地図を携帯していない利用者への位置周知のため	・主要登山道のルートの道標
注意喚起	・降雨時には渡渉不可		・全ての渡渉点に設置するのではなく、利用体験ランクに応じた設置が望ましい。	・渡渉点
	・立ち入り禁止		・見えるところに看板があると、行きたくなる。通常は見えないところに看板を設置してほしい。 ・湿原内の入る人がいるので、気がつきやすい位置に看板設置する	・高塚小屋の背後 ・花之江河、小花之江河
	・水場があっても、枯れている場合が多いことを注意喚起(登山口に表示)			・愛子岳 ・宮之浦岳山頂～高塚小屋 ・永田歩道
	・標識がいくつもあるので、統一標記にする ・特に外国人も多く見る場所なので、英語標記併用			・ウィルソン株
資源名・解説標識	・名称標記の看板		・著名杉は名称標記の看板は設置する。それ以外の特徴的な巨木等については、基本的にガイドからの説明にする。	・著名杉(大王杉、夫婦杉、三大杉など)